

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

10
No.405



温故知新 ～一途に社協道～



福井県指定無形民俗文化財
八田獅子舞

八田獅子舞保存会 会長 河合 敏明 さん（越前町）



稲刈りを終えて一息できる10月初旬、八田地区（約70戸）の4箇所の神社に「のぼり」が立ちます。

夜明けとともに保存会の面々が、和装に下駄のいでたちで柳田神社に集結し、一礼の後、拝殿に上り、悪魔払い・本獅子・にらみ・剣・三番叟・あがき、の順で舞い上げ氏神様に奉納します。御神酒を口に含んで境内を後にすると、いよいよ区の全戸を舞い歩く秋の祭りの始まりです。

八田の獅子舞は、280年もの昔から、その時代のこの越前町八田地区の若者達が主人公になって演じられてきました。

昭和61年に福井県無形民俗文化財に指定され、翌62年に八田地区の小学3～6年生の児童全員から成る「こども獅子舞会」を結成し、獅子舞を教えると共に礼儀作法も指導しています。

キラキラした華やかさは無くても、祖父から親へ、親から子、孫へと伝える舞や曲を自分自身が演じることで、或いは見守ることで、カーニバルとは異なった感動が味わえることは確かです。あくまで基盤を地区のきずなに置き、地区の健康を祈りながら家々を練り歩く獅子の行列は、いつまでも大切にしたい280年前からの八田の秋の風景です。

温故知新

1年を通して行われる祭りには「祈りや感謝そして願い」といった人の願いがこめられています、だからこそ代々受け継がれてきた祭りを大切に守り、次世代へと繋いでいます。

そのことを踏まえ、地域と密接な関わりがある祭りに焦点をあて、福井県内の祭りをシリーズで掲載していきます。



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

町に愛を。胸に羽根を。

（赤い羽根共同募金にご協力よろしくお願ひします）

じぶんの町を良くするしくみ。

昭和22年（1947年）から始まった赤い羽根共同募金運動。当時、戦

後間もなく国民全体が厳しい生活を送っているなかで、お互い助け合つて生きていこうと強い連帯感で生まれた運動でした。

町に愛を。
胸に羽根を。

赤い羽根共同募金



社会が大きく変化し67年たった今も、このたすけあいの精神は受け継がれ、地震や豪雨などの自然災害や、社会的孤立状態にある人達を地域全体で支えていくための運動として地域の福祉活動を支え続けています。

福井県共同募金会では、災害支援に役立てる準備金や各地域の福祉ニーズを取りまとめ1億8千110万8千円の助成計画を基に今年も募金運動を実施します。

募金の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

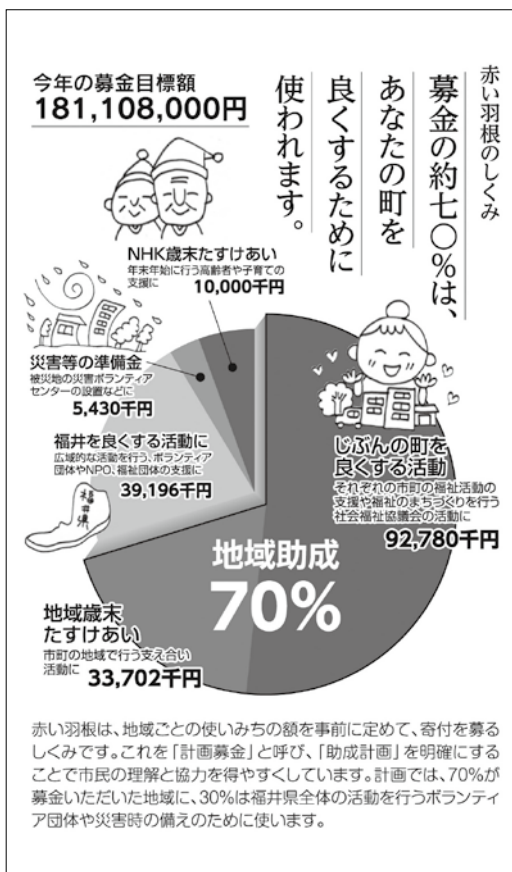
あのポスターは、福井のあかいはね女子？！

共同募金で支援している団体でボランティアとして活躍している女性を「あかいはね女子」と呼んでいます。単なるアイドルや流行モノの「女子」ではない、一生懸命に頑張っている彼女たちにスポットをあて、ポスターやテレビCM等で紹介しています。

そのような今年の全国ポスターに福井の「あかいはね女子」行方彩さんが選ばれました。



※行方さんは本会のホームページ (<http://akaihane-fukui.jp/>) でも紹介しています。



身近にある楽しい募金方法。

赤い羽根という、駅前やスーパーで募金活動を行う「街頭募金」を連想しますが、他にも自治会毎に集める「戸別募金」や学校で生徒たちが取り組む「学校募金」、職場で取り組む「職域募金」や「法人募金」など様々な募金があります。

なかには、こんな楽しい募金方法もあります。

ガチャガチャ募金

硬貨（200円）を入れてレバーを回すと缶バッジ等が入っているカプセルが出てくる仕組み。

カプセルの中身も赤い羽根のロゴマークの缶バッジの他に観光地のキャラクターや戦国バサラ4の缶バッジ、初音ミクのピンバッジなどの様々なガチャガチャ募金が増えていく。



寄付金付き自動販売機

清涼飲料水の自動販売機に寄付できるボタンを設置し利用者が寄付できる仕組み。売上げの一部も自動販

売機業者から寄付がある。現在、県内で40カ所に設置。



クリアファイル募金

400円以上寄付した方へプレゼントしている。

ホームページからの申請や電話でも受け付けているが、送料の負担が必要。初音ミクのクリアファイルは4種類、他にも戦国バサラ4のクリアファイルもある。



illustration by 羽雪
©Crypton Future Media, INC. WWW.PIAPRO.NET piapro

クーポン募金

福井県内の小売店の消費拡大と地域福祉を目的に、500円以上寄付していただいた方にお礼として約200社のサービス券を綴った冊子をお渡しし、寄付がじぶんの町に役立ち、参加店舗の集客力もあがり



寄付者はひとくちの寄付で何倍ものお得な買い物を楽しめるという、「三方よし」の募金方法。



遺贈について考えてみませんか？

長年のご努力で築きあげた資産を、社会のために有効に使いたいという方が増えています。

福井県共同募金会では、そんなお気持ちをお手伝いさせていただければと、遺贈・遺産寄付に関するパンフレットを作成しました。関心のある方はご連絡いただければパンフレットをお送りします。

※遺贈・遺産の受付については税制の優遇や褒章、感謝状を贈呈しています。



このような冊子です
●サイズ：A4 6ページ
●内容
・遺贈寄付について
・相続寄付について
・香典などの寄付について
・感謝状、税制、助成団体など

舞鶴若狭自動車道 全面開通!!

沿線社協通信

小浜市社会福祉協議会



1. 社協組織構成

一人ひとりが安心して暮らしていくように、住民はもとより福祉サイドから各関係機関と連携を図りながら活動しています。職員の総数は73人となっており、介護保険事業に取り組み出した2000年を契機に事業職員が急激に増え、現在では62人が介護に従事しています。

2. 力を入れている事業

【ハンセン病回復者との交流】

小浜市社協職員が県内社協の有志と一緒に、岡山県の瀬戸内にある国立療養所を訪問したのは20年以上前のこと。その時に1人の小浜市出身者と出会ったことがきっかけとなり、以来、民間レベルで交流を続けている歴史ある事業です。

「園内の」桜が咲く頃に、また来てほしい。」との願いに「交流を深める会」を結成し、多くの市民がこの病の持つ負の歴史に学んでいます。特筆すべきは、小浜出身者の半生を描いた手記をもとにした市民劇の公演です。家族と引き離され、社会との絶縁生活を強いられてきた過酷な人生に多くの人の理解と共感を得て、その後の人権学習・交流事業に更なる弾みがつくこととなりました。

昨今は、中学生や高校生の若人をターゲットに当事業を進めており、福井県が行う回復者の里帰りと連携しての学校での交流や療養所訪問を実施しています。1996年に「らい予防法」が廃止されるも、入所者の高齢化と今だに根強く残る偏見と差別により、ふるさとに戻る事ができない現実があります。まずは知って何かを感じ、そして人の尊厳について考えてもらう機会になればとの想いで取り組んでいます。

3. 小浜市紹介

“海のある奈良”と言われるこのまちは、古から大陸や京都・奈良の都との交易が盛んであり、その文化を色濃く受けて数多くの寺社・文化財を有するとともに、伝統芸能・行事が受け継がれています。また、お箸（塗箸）の生産では日本一を誇り、観光とともに

食文化・食育を推進する健康のまちづくりに取り組んでいます。

高齢化率は30%が目前となっており、人口の減少と一人暮らしや高齢者世帯の増加は今後も続く傾向にあります。近隣の見守りや支え合いが一層不可欠なものとなっています。

そんな中、舞若自動車道の全面開通は、交流人口を増やし地域活性化への起爆剤として大きな期待が寄せられています。内にもやさしい、外にもやさしいまちづくりに福祉の面から貢献していきたいと意気込んでいます。それから、何と言っても福井ICまで1時間となりました。料金はかかるものの、時間を買うことができると思えばその価値は計り知れません。

美浜町社会福祉協議会



1. 社協組織構成

平成26年9月1日、美浜町社協が36回目の誕生日を迎えました。また、役員の改選により、第19期の新役員体制ができ、気持ち新たにスタートいたします。

ました。また、事務局体制心機一転、長年勤められた秋山氏が退職となり、宮下新局長のもと今まで以上に「仲良く」「元気に」、理事15名、監事2名、顧問1名、評議員38名、福祉委員85名、職員82名の体制で役職員一同力を合わせて頑張っています。

2. 力を入れている事業

社協は今日まで、「住民同士の助け合い」を目指し、取り組んできてまいりました。といっても、社協主導の組織づくりや活動ではなく、あくまでも地域住民が主役の福祉のまちづくりです。

昨年度、第3次美浜町地域福祉活動計画を策定し、それに伴う社協としての取り組みが進んでおり、なお一層住民主体の取り組みや事業が展開されています。目玉事業のひとつが、第1回集落自慢コンテストで、各集落での取り組みや活動にスポットをあて、住民が主役になれるように考えながら進めています。

3. 美浜町紹介

海、山、湖が一度に楽しめる美浜町。近畿圏が近くなりさらに観光客が増える・・・かな？



高浜町社会福祉協議会



1 社協組織構成

高浜町社会福祉協議会には、和田事務所と緑ヶ丘事務所の2ヶ所事務所があります。和田事務所は総務管理と地

域福祉の業務を行っており、事務所は高浜町保健福祉センター内にあります。緑ヶ丘事務所は町の西部の青郷地区にあり、介護保険や障がい・指定管理の業務を行っています。和田事務所は19人、緑ヶ丘事務所では33人の職員が在籍しています。

2 力を入れている事業

高浜町社協が力を入れている取組みは、地域に出向くことで、内浦地区にある廃校となった小学校を再利用し、「地域の憩いの場」、「いつでも活用できる場所」として『ふれあい広場』という名称で活用している地域活動拠点事業です。現在では地域のニーズをひろいながらサロン、料理講習、カラオケサークルなどを定期的に実施し、時

には卓球大会などのイベントを行っています。月に一度、会議を行い地域の拠点となるよう住民さんと意見を出し合いながらさまざまな活動に繋がっています。その他、障がいや在宅介護などの相談窓口の充実、食支援サービスの拡充、ボランティア活動の強化、各種活動支援を今年度の高浜町社協の重点目標として職員一同が力を入れて取り組んでいます。

3 高浜町紹介

舞鶴若狭自動車道が全面開通し最も良かった点は、高浜町は福井県の西端に位置しており嶺北に行く時間がこれまで2時間以上もかかっていたところが開通後は1時間10分で行くことができるようになり移動時間を大きく短

縮できたことです。また、高浜町への観光客の増加が見込まれます。高浜町には海水浴場が多くあり、夏には海水浴が楽しめます。中でも和田海水浴場は環境省が選定する海水浴場100選にも選ばれ、日本随一ともいえるほど遠浅の海となっています。また、砂浜も広くビーチバレーやバーベキューなども楽しめます。これまでの関西圏からの観光客だけではなく嶺北や中京圏からも観光客が見込まれます。高浜町と京都府境には青葉山という美しい山があり若狭富士と呼ばれています。山頂から望む日本海が絶景で毎年多くの登山客が訪れます。海も山も美しい高浜町へ是非お越しください。

おおい町社会福祉協議会



1 社協組織構成

おおい町社会福祉協議会は平成18年に旧大飯町社協と旧名田庄村社協が合併し、誕生しました。職員総数70名。基本理念を「誰もががつながりを実感で

き住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」とし、地域の多くの方との協働による様々な福祉事業を展開しています。

2 力を入れている事業

高齢者の在宅生活を支援するため、小規模多機能ホームやデイサービス、配食サービスや移送サービス、地域のボランティアと協力してサロン活動などの事業を進めており、障がい者や子育て中の親子等の多様な福祉ニーズにも対応するため地域の特性を踏まえ、いくつかの独自の事業にも取り組んでいます。この中でも力を入れているのが、地域密着型の介護サービスを提供する小規模多機能ホームを、地域の福祉の拠点とする在宅支援事業です。本会では、安心して暮らせる住み慣れた

地域”を旧村単位と考え、平成19年の1カ所目から小規模多機能ホーム設置計画を進めており、舞鶴若狭自動車道が全線開通した今年、集大成となる5ヶ所目の「びわの木」が大島地区に完成しました。どの施設もそれぞれに、地域のニーズに添って特色ある取組みをしています。

今後は、職員同士もより一層も連携を強化し、町内全体の幅広い情報や課題の共有により、多様化する福祉ニーズに対応できるよう努めるだけでなく、それぞれの施設が地域との関わりを深め、町の誰もが知っているだけではなく、気軽に立ち寄れる福祉の拠点・相談窓口を目指します。

3 おおい町紹介

平成18年旧大飯町と旧名田庄村が合

併し誕生したおおい町は、福井県の南西部に位置し若狭湾国定公園に面した海、町域の90%を占める山林からもたらされるきのこや梅、じねんじよ等が特産品の自然豊かな町です。また、水上勉さんの図書館「若州一滴文庫」や曆会館、きのこの森、こども家族館等個性的な施設もあり、魅力ある文化や歴史も満喫でき、夏に行われる「スーパード大火勢」や「星のフィエスタ」では多くの観光客で賑わいます。

この7月、嶺南地域の長年の悲願であった舞鶴若狭自動車道が全線開通し、嶺南・嶺北間の移動時間が短縮され、嶺北が身近になりました。高速道路を利用し本町への来客増加と嶺南・嶺北の社協の交流、関係の強化に期待します。

若狭町社会福祉協議会



1. 社協組織構成

若狭町社会福祉協議会は、平成17年4月に旧三方町社協、旧上中町社協が合併し誕生しました。パレア若狭に本所を置き、いずみ、五湖の郷各事業所と合計3つの事業所に170名の職員が在籍しています。「声をかたちに」のスローガンのもと、住民の声という無形のものをカタチにした地域福祉活動を展開しています。

2. 力を入れている事業

● 小地域福祉活動推進事業

住民主体の支え合いや協働のまちづくりを推進するため、住民が一番身近に感じられる集落（自治会）を基本単位として、小地域福祉活動を推進しています。小地域福祉活動とは、身近な地域で発生している生活上の問題を集落全体の課題として、地域住民が解決に向けて主体的に取り組む活動です。

（小地域福祉活動推進セミナー）

住民主体の小地域福祉活動を推進

するため、推進セミナーを開催し住民主体の支え合いや協働のまちづくりへの意識啓発を行っています。

（小地域福祉活動推進モデル事業）

- ・小地域福祉活動を実践する集落を3年間モデル指定し、集落の住民と社会福祉協議会が協働してその集落にあった取り組みをモデル指定期間中に創り上げます。また、そういった事例を広く周知することにより、町全体での小地域福祉活動を推進しています。

- ・小地域福祉活動連絡会を開催し、モデル集落同士の情報交換の場を提供しています。

● 若狭町災害ボランティアセンター連絡会の設置

昨年9月の台風18号の災害を教訓に8月29日に設立会を開催し立ち上げました。災害に備え、地域住民・各関係機関・団体等とのネットワークづくりの強化、平時より、災害における対応方法等について協議・情報共有する場をもち、災害時に迅速に動くことの出来る体制（土台）をつくることで、災害に強い地域づくりを目指しています。

● きらりアート展の開催

障がい者や特別な支援を要する人、児童生徒たちのアートを一堂に集めたアート展を開催。平成25年度の第4回より社協が事務局となり、県内外から229点の応募があり、大賞を含む36点が入賞しました。近

年、障がい者アートの認知度が高まっていることもあり、町内外の複数の機関からも展示依頼が来ています。

3. 若狭町紹介

若狭町は、福井県の南西部にあり人口15,974人（H26年8月1日現在）の町です。

平成17年3月31日に「三方町」と「上中町」が合併し、誕生しました。国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録された「三方五湖」、全国名水百選「瓜割の滝」など水資源が豊富な町です。また、「縄文遺跡」

などの古墳が数多く点在。国道303号線は、かつて日本海と畿内を結ぶ「若狭街道」として多くの物や文化が行き交い、街道に沿って栄えた宿場町「熊川宿」は、国の重要伝統的建造物群に選定されています。

福井梅の発祥の地でもあり、梅や梨などの果物栽培が盛んなほか、民宿や旅館が90軒以上あり、観光にも力を入れています。

舞若道が開通し、嶺北へのアクセス時間も短縮でき交流が深まると考えます。

2014年9月1日に発行致しました「ふくい社会福祉9月号（No.404）」3ページ目の記事につきまして誤りがありました。

訂正前

マイク イキャップはどのように集めていますか？

9月20日に行われる嶋田病院の夏祭りで、みんなで共同制作したものを展示したいと考えていたところにチラシが回ってきて、やってみたことがなかったので参加しようと思いました。

訂正後

マイク イキャップはどのように集めていますか？

親も他の施設で働いており、親が集めていたものをもらったことがきっかけで、今では病院内の各施設に呼びかけて集めています。

読者の皆さまならびに関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げ、ここに訂正させていただきます。

生活福祉資金貸付制度のご案内

みなさんは生活福祉資金貸付制度をご存じでしょうか？所得の少ない世帯、障がい者や介護を必要とする高齢者がいる世帯の生活の安定と経済的自立を図るために、資金をお貸しする制度です。

総合支援資金

失業者等生活全般に困難を抱えている方への生活費および一時的に必要な費用

福祉資金

①福祉費 ②緊急小口資金
日常生活を送る上で、または自立した生活を送るために、一時的にまたは緊急に必要な費用

教育支援資金

高等学校、短大、大学、高等専門学校への修学に際し必要な費用と入学に際し必要な費用

不動産担保型生活資金

お住まいの居住用不動産を担保に将来にわたり住居に住み続けるために必要な費用

利用できる世帯

生活福祉資金は、個人ではなく次のとおりの世帯を単位として貸付けします。

利用できる世帯	要 件
低所得世帯	資金の貸付けにあわせて必要な支援を受けることにより独立自活できると認められる世帯で、独立自活に必要な資金の融通を他から受けることが困難であると認められる世帯。(所得制限があります。)
障がい者世帯	身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている方と共に生活している世帯。
高齢者世帯	65歳以上の日常生活上療養または介護を必要とする方と共に生活している世帯。(所得制限があります。)

他の貸付制度を利用することが可能な場合は、他制度（母子寡婦福祉資金、日本学生支援機構による奨学金など）を利用していただきます。

貸付のお申し込みを希望される方は、最寄りの市町社会福祉協議会、または福井県社会福祉協議会（TEL：0776-24-4987）までお問い合わせください。

～「つながれボランティアの輪」推進運動5周年メモリアルイベント～ ふくい・つながりフォーラム2014

どなたでも、どのプログラムからでも参加できます。参加無料！

日時 平成26年**11月8日(土)** 11:00～16:30

場所 福井県生活学習館ユー・アイふくい「多目的ホール」他
(福井市下六条14-1)

主催 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
「つながれボランティアの輪」エコキャップアート実行委員会



当日参加された方には、つながりの証として反射リストバンド「**つながりリング**」を進呈！

プログラム

11:00	12:00	12:30	14:00	14:15	15:05	16:00	16:30
	受付	[式典] 社会福祉大会 実践賞 表彰式	休憩	記念講演	トーク・カフェ	エコキャップアートコンテスト 表彰式、フィナーレ	閉会
エコキャップアートコンテスト投票・審査、セルフ物品販売会(東北応援) コーナー、 ちょボラdeつながり体験コーナー、ボランティア活動紹介パネル展							

つながり記念講演・つながりトーク・カフェ 14:15～16:00【会場】多目的ホール

記念講演では、渡部陽一氏が、戦場カメラマンとして世界中を取材する中で見つけた、人と人とのつながりや支え合いのエピソードなどを、撮影写真とともにお話いただきます。

トーク・カフェでは、ふくし情報通のママと聞き上手なママの妹が切り盛りする「カフェ・ド・ミキティ」を舞台に、出演者の皆さんをお客様としてお迎えしてステージ上でトークを繰り広げます。



つながり記念講演 「世界で見つけた人と人との素敵なつながり」
渡部 陽一氏 (戦場カメラマン)

つながりトーク・カフェ **出演者** 渡部 陽一氏
3兄妹ソーシャルバンド「一途」
(音楽を通じたいじめ防止、まちづくりの啓発活動を行うグループ)
進行役 さかい ちよみ氏 (フリーアナウンサー)
長谷川 美貴氏 (勝山市社会福祉協議会職員)

ちょボラdeつながり体験コーナー

ちょボラとは「ちょっとしたボランティア」の略。日常の中でできるちょっとしたボランティアをスタンプラリー形式で体験できます。

<運営協力>

ふくい県民活動・ボランティアセンター
(県男女参画・県民活動課)

<体験メニュー>

バルーンアート、使用済み切手の仕分け、エコキャップアート作成、ボランティア相談コーナー

エコキャップアートコンテスト



ペットボトルのキャップを使ったアート約30作品を一堂に展示し、フォーラム来場者の投票と実行委員会の審査により、優秀作品を決定し、表彰します。

お問い合わせ

【事務局】 福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課
〒910-8516 福井市光陽2-3-22
TEL 0776-24-2339(代) / FAX 0776-24-0041 E-mail volunt@f-shakyo.or.jp